

60. 生きるということ

2015.3.1 遠藤清賢

今の私たちは何のために生きているのか明らかな目的も方向性も持っていないように思います。この地上の生き物は全て自分たちの命を次の世代に継承させるために生きています。生物が生きている最大の目的はこの命の継続にあると私は思います。新しい命を誕生させ、その命の成長を支えるために私たちはこの世に生まれてきたのだと思います。現在の人間はこの点で異質な生き物になってしまいました。命の継続ではなく自分自身だけの命の存続のために生きているようです。しかも、出来るだけ心地よく、自分の欲望を満たすことを優先して生きているのが今の私たち人間なのです。特に先進国の人たちはそのように思っているのではないのでしょうか。先進国ほど出生率が低くなっているのは、自分の命の存続が生きる目的になってしまうから、新たな命の誕生について自分自身のことに比較すると命の誕生は重要な事ではないのかもしれない。ですから、新しい命の誕生をあまり望んでいないと言っても良いのかもしれない。今の心地良さをいつまでも存続させたいという思いが強く、自分の命がいつまでも存在し生き続けることが最も重要なことになってしまったのです。

もっと端的に言えば自分が良ければ、その他はどうであつたとしても良いと考えている人が多くなってしまったということです。他者のために生きることができなくなったために、人間は様々な争いが見られるようになりました。世界中どこでも争いが絶えません。私たち日本の社会でも、簡単に他者の命を奪ってしまう事件が頻発しています。家族の中であっても、自分の子どもであっても傷付け、虐待してしまう事件が後を絶ちません。自己の利益を優先し、そのために失われてしまう大切な命を思うことができなくなっています。私たちの心の中に、他者のためにという思いが徐々に失われてしまう環境があるのか、争うことに導かれてしまう何か変な現象が起きているのか、ただ単に生活の変化とか、精神環境の変化だけでは片づけられない物があるのかもしれない。

この地上の生き物は命の継続に全力を注いでいます。私たち生き物として成さなければならないのは自分の命の存続ではなく、自分たち人間の命の継続です。命を次の世代に繋げるという思いが徐々に失われてしまっています。この地球上の生き物としての本来あるべき命を次世代に繋げるという生き物としての本能が失われているということは、徐々に人間の存在は消滅の方向に向かっているということだと思ふのです。人間は自己保身のためにしか生きられなくなっています。人間の精神文化が後退していることを私たちは気付いていないのです。人間の能力を過信し、全ては人間だけのために存在し、自然のシステムを破壊し、環境は自分の都合の良いように作り変えることができると思っている人間が大多数になっているのです。地球も生き物なのです。神様によって人間は地球の上で生きることを許されているということを謙虚に考えなければならないのです。人間は他者を生かし、全ての命を大切に思う思いを再び取り戻すために何をなすべきなのか、どのように生きるべきなのかを真剣に考え、正しい命の方向を見つけなければなりません。



《ライス春巻き》

5本分の材料

ごはん 350g、桜エビ(素干し)大さじ2、
しらす干し 大さじ2
ピザ用チーズ 20g、
青のり小さじ1、醤油大さじ1/2
春巻きの皮 5枚、揚げ油 適量

作り方

- ① ご飯に桜エビ、しらす干し、ピザ用チーズ青のり、醤油を混ぜる。
- ② 春巻きの皮で包み、180℃位の油で揚げる。



奥州市江刺区男石1丁目3-5

社会福祉法人 江刺保育園 子育て支援事業

電話 0197-35-1522

ファックス 0197-35-1741

子育て広場「友遊広場」専用電話 090-7327-9686

Eメール esahoiku@pup.waiwai-net.ne.jp

ホームページ

<http://www.esashihoikuen.com/>